

Title	太宰治スタディーズ 第4号 目次
Author(s)	
Citation	太宰治スタディーズ. 2012, 4
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/97706
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

「太宰治スタディーズ」第4号（2012.06） 目次

イントロダクション——〈一九三九年〉の甘い誘惑

井原 あや 4

小特集 〈一九三九年〉——編月体でみる話題作とメディア

小澤 純	一月	——	三者三様の従軍作家と〈銃後〉の短篇小説
滝口 明祥	二月	——	野生の魅力、或いはインテリの生きづらさについて
井原 あや	三月	——	近頃流行りの「何とか文学」と中里恒子の芥川賞
青木 京子	四月	——	岡本かの子追悼・戦記
松本 和也	五月	——	富澤有為男「東洋」と岡本かの子遺稿群
斎藤 理生	六月	——	反・長篇小説の機運
内海 紀子	七月	——	「女流作家」の進出・大家の小説
平 浩一	八月	——	「素材派・芸術派論争」の推移と「無意味」化の問題
長原しのぶ	九月	——	芥川賞作品と時局批評の対置構造
大國 眞希	一〇月	——	文章の力を信仰する作家の追悼と文学を超えようとした「こころ」の産声
吉岡 真緒	十一月	——	リアリティのありか
野口 尚志	十二月	——	一年間の概観と作家が個を打ち出すこと

総特集 へ一九三九年へ——研究論文

大國 眞希 小説に倍音はいかに響くのか、ロリス言葉はいかに生成するのか、太宰治「I can speak」前後、

小澤 純 《感謝の文学》の射程——「富嶽百景」への遠近法

滝口 明祥 断片とモンタージュ、或いはアレゴリー化する近代——太宰治「富嶽百景」

野口 尚志 太宰治「秋風記」論——空虚な「私」はどこへ帰ったか

長原しのぶ 山岸外史『人間キリスト記』の影響と可能性——「葉桜と魔笛」を中心に——

斎藤 理生 『八十八夜』の〈笑い〉

平 浩一 太宰治「八十八夜」と〈初期実験作〉——一九三九年のパラダイムチェンジ——

吉岡 真緒 太宰治「皮膚と心」論——記号性の消失、無効化される権力

……へ一九三九年へとの接続

青木 京子 太宰治の志賀文学批判——「女の決闘」・一九三九年の作品

内海 紀子 ミメーシスの転進——太宰治「女の決闘」と「鷗」における「ものを見る眼」

松本 和也 戦場というモチーフをめぐる媒介／触発——田中英光「鍋鶴」と太宰治「鷗」

井原 あや 奇妙な二役——太宰治「葉桜と魔笛」と映画「真白き富士の嶺」

書評

松本和也著『太宰治の自伝的小説を読みひらく』（立教大学出版会）

水川 敬章

著者紹介・編集後記